

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 13 日現在

機関番号：34405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370144

研究課題名(和文)伊勢物語絵の体系構築に向けた近世作品の研究－住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」を中心に－

研究課題名(英文)a study for genealogy production of ise monogatari painting -centering on sumiyoshi jyokei's "ise monogatari scroll"-

研究代表者

河田 昌之 (Kawada, Masayuki)

大阪芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号：20712061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)に描かれた80章段の各絵画場面について物語の内容がどのように絵画化されているのか読み取りを行った。美術史、国文学、建築史・住宅史の3分野の研究者が、住吉如慶の作風や絵画表現について、注釈書や版本の図様との比較をとおして、討議を重ね検討した。その結果として、本絵巻は伊勢物語絵の伝統をふまえて、独自性を備えた場面解釈や絵画表現を持つ作品であることが明らかになった。この研究によって、伊勢物語絵の体系を構築する上で、江戸時代前期を代表する作品として基礎的な研究データを得ることができた。この研究成果を研究書として公刊する予定である。

研究成果の概要(英文)：I read about the contents of the story about the painting scene of 80 chapters included in "Ise Monogatari Scroll" drawn by Sumiyoshi Jyokei in the Tokyo national museum. Researchers in the three fields of art history, national literature, architectural history, and housing history repeatedly discussed the style and painting expressions of Sumiyoshi Jyokei through comparisons with annotations and illustrations. As a result, I can clearly see that this picture scroll is a work with scene interpretation and pictorial expression with uniqueness, based on the tradition of Ise Monogatari painting. By this research, I was able to obtain fundamental research data as a representative work of the early Edo period in constructing the system of Ise Monogatari painting. I plan to publish this research result as a research book.

研究分野：人文学

キーワード：伊勢物語 伊勢物語絵巻 住吉如慶 愛宕通福 物語絵 絵巻 やまと絵 住吉派

1. 研究開始当初の背景

日本の古典物語の享受の場で、絵の存在は物語のイメージを捉える上でおおきな効果があることは周知されている。そのなかで、伊勢物語を題材とした伊勢物語絵は、源氏絵という体系化されたジャンルが構築されている源氏物語とその絵に関する研究に比べて、系統だった研究が遅れている。

このような状況に対して、伊勢物語を専門とする国文学研究者5名と日本の中近世絵画史や染織史の研究者4名が、平成14年に「王朝文学と絵画に関する研究-伊勢物語絵の研究-」をテーマとして伊勢物語絵研究プロジェクト(顧問・片桐洋一 研究代表者・羽衣国際大学日本文化研究所長泉紀子)を立ち上げ、国内外の鎌倉時代から江戸時代前期にかけて制作された絵巻やその断簡を中心に、絵本をも含めて作品調査を行った。その成果として、平成19年度「科学研究費補助金(研究公開促進費)」の交付を受けて、『伊勢物語絵巻絵本大成(資料編 研究篇)』(角川学芸出版、2007年)を上梓した。絵巻5件、絵巻断簡1件22図、画帖1件、絵本2件をカラー図版で詞・絵の全図を掲載し、付録として絵巻と断簡10件、嵯峨本伊勢物語と嵯峨本の図様の流れを汲む絵巻をすべてカラーで掲載した。研究編では資料編で取り挙げた作品すべてについて論考と場面解説、加えて法量などの書誌データも入れた。従来知られていたが全図が公開されていなかった作品が同書の大半を占めていたことで、伊勢物語絵の研究が格段に進展を見せた。

このプロジェクトのメンバーは、一部が入れ替わり、江戸時代初期のきわめて特徴ある伊勢物語絵である俵屋宗達とその一派が制作した伊勢物語図色紙を研究対象に取り挙げた。現存する59面の作品すべてを原寸大のカラー図版にし、作品解説と論考を加え、『宗達伊勢物語図色紙』(羽衣国際大学日本文化研究所 伊勢物語絵研究会編 思文閣

出版、2013年)として上梓した。宗達や宗達派の作品研究、ならびに近世の伊勢物語絵の研究資料として生かせることを考慮して制作した。一堂に見ることが困難な作品を原寸大で全作品掲載するのは初めてであった。

これらの成果を受けて次に取り組んだ作品が『伊勢物語絵巻絵本大成(資料編 研究篇)』において概要を紹介するにとどまっていた東京国立博物館が所蔵する住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」6巻(如慶筆「伊勢物語絵巻」と略称)である。伊勢物語絵の享受史において重要な作品であるにもかかわらず、概要の報告程度にとどまり、研究は進んでいなかった。

如慶筆「伊勢物語絵巻」については、『伊勢物語絵巻絵本大成(資料編 研究篇)』の付録に絵画化された80場面を列記し概説した(「東京国立博物館本 住吉如慶筆伊勢物語絵巻」執筆河田昌之)ことに続き、和泉市久保惣記念美術館の開館30周年記念特別展「伊勢物語 雅と恋のかたち」では6巻のうち2巻を展示し、特徴を同展覧会図録で解説した(作品番号23「伊勢物語絵巻 住吉如慶筆 愛宕通福書」執筆河田昌之)。また、河田は「住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)-近世伊勢物語絵に見る住吉如慶の創意-」(『伊勢物語 享受の展開』竹林社、2010)として絵画場面全段の解説と、場面構成には冷泉家流古注の影響を指摘した。赤澤真理は「住吉如慶・具慶の物語絵にみる古代寝殿造への復古」(『源氏物語にみる近世上流住宅史論』中央公論美術出版、2010)で建築史の観点から論を展開した。これらの論考は本作の研究端緒となった。

2. 研究の目的

平安時代に成立した伊勢物語は、源氏物語にも影響を与え、平安時代の古典文学のなかできわめて重要な作品であるが、絵画史上での研究対象とその成果は現存する鎌倉時代

から江戸時代初期までの作品に止まっている。

伊勢物語絵の体系を構築するため、江戸時代に制作された伊勢物語絵のうち、制作者、伝来等が明確な住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)6巻を対象にして、美術史、国文学、建築史・住宅史の研究者が専門分野からのアプローチによって作品の特質を明らかにする。

3. 研究の方法

平成 26 年度

如慶筆「伊勢物語絵巻」6巻本の絵を伴う80章段の内容を読み取り、本文が属す伝本系統を明確にした。併せて「紀州東照宮縁起絵巻」(和歌山東照宮蔵)ほか国内の関連作品の調査を行った。

平成 27 年度

絵画場面の読み取りを継続した。併せてメトロポリタン美術館、インディアナポリス美術館、クリーブランド美術館、ミネアポリス美術館、ネルソン・アトキンス美術館にある関連作品の調査を行った。

平成 28 年度

平成 26、27 年度に行った絵画場面の読み取りと絵画表現や伝本研究に完結の目処がたったのを受け、注釈書、版本類、調査した内外の作品との関連、伝来の経緯等から制作目的や本作品の意義等の考察も進めた。内外での調査も継続し、弘前市立図書館では津軽家文書、ニューヨーク・パブリック・ライブラリー、ハーバード大学美術館、フリーア美術館では関連作品を調査した。成果を出版等で公表する予定を立てた。

3年間を通して、月1回開催する定例研究会で、研究会のメンバーが意見を述べ合い、多分野からの視点で本作の検討を行った。

4. 研究成果

伊勢物語は10世紀中頃に成立した。11世

紀初頭に書かれた源氏物語の絵合の段には、絵巻として作られたことが述べられており、伊勢物語が絵画の題材となったことがうかがえる早い例として知られている。絵画作品として現存する伊勢物語絵は、鎌倉時代後期に制作された「梵字経刷白描伊勢物語絵巻断簡」(大和文華館ほか蔵)と「伊勢物語絵巻」(和泉市久保惣記念美術館蔵)が早い作例である。前者は物語の10段分に満たず、後者は7段分の詞と6段分の絵に止まり、双方の作品の全体像はつかめていない。室町に続く江戸時代にも伊勢物語は絵画化されていたが、絵の表現や構図において鎌倉時代の作品に見る完成度には及ばないものが大半を占めている。江戸時代の前期には「嵯峨本伊勢物語」が作られ、その挿図49図に基づいた伊勢物語絵が生まれるなかで図様は固定化されていた。源氏物語を題材にした源氏物語絵と伊勢物語絵を比較すると、現存する作品数や表現の豊富さにおいて、伊勢物語絵は源氏物語絵に及ばない。

このような伊勢物語絵の制作状況のなかで、詞を公家の愛宕通福(おたぎみちとみ・1634~1699)が写し、絵を絵師住吉如慶(1159~1670)が担当して完成された「伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)は、伊勢物語全125段の詞と80場面の絵で構成された6巻本である。この絵巻の制作は、本絵巻第6巻末に備わる愛宕通福の「左中将通福書之」の落款から、通福が左中將に昇った寛文元年(1661)以降であり、第1~6巻末の絵にそれぞれ記された如慶の「住吉法橋如慶筆」の落款により、如慶が法橋に昇った寛文3年(1663)以降となることから、寛文3年以降、如慶66歳以降の晩年の大作であることがわかる。

この作品は、物語の全章段を含んでいて欠落がないこと、現存する伊勢物語絵のなかで、書風と画格がひとときわ優れていることが大きな特徴となっている。とくに描写が丁寧で

調度や装束も緻密な筆遣いにより鑑賞性が高められている点は絵の大きな見所である。加えて保存が良好であることも資料としての高い価値を備えていると言える。

伝来については、4代将軍徳川家綱の正室高蔵院(1640~1676)の遺愛品で、家綱の従姉妹に当たる津軽家4代藩主津軽信政の正室不卯姫に下賜された作品であることが津軽家文書などから知られており、伝来の明確さが作品の質を保証する要因にもなっている。

近年、展覧会で公開されることも増えており、近世の伊勢物語絵の最高水準を示す作品であることが知られてきたが、この作品は断片的に図版として紹介されているものの、絵巻全体の構成や場面解説をともなった研究書はない。そのため、作品研究や場面の解釈も進んでいない。

本研究では、如慶筆「伊勢物語絵巻」に描かれた80章段の各絵画場面について物語の内容がどのように絵画化されているのか読み取りを中心にして、基礎的なデータの集積と研究を行った。美術史、国文学、建築史・住宅史の3分野の研究者が、住吉如慶の作風や絵画表現について、注釈書や版本の図様との比較をとおして、討議を重ね検討した。また当該作品を初め、住吉如慶が描いた三十六歌仙画帖(和泉市久保惣記念美術館蔵)、住吉具慶筆「東照宮縁起絵巻」(紀州東照宮蔵)さらにメトロポリタン美術館、ニューヨーク・パブリック・ライブラリー、フリーア美術館、ネルソン・アトキンス美術館、ミネアポリス美術館、インディアナポリス美術館、ハーバード大学美術館において、各館が所蔵する伊勢物語絵を主に、物語絵、歌仙絵などの関連作品を実地調査し、本絵巻との比較を行う資料収集を行った。

その結果として、章段内容を描いた絵には、第9段「八つ橋」(第2巻)のように「異本伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)との関連や、第23段「立田越え」(第2巻)、第87

段「布引きの滝」(第5巻)のように「嵯峨本伊勢物語」の挿図との関連を示すものなど、従来の伊勢物語絵の伝統をふまえて構成されていることがわかったほか、第29段「花の宴」は「承安五節絵巻」(宮内庁三の丸尚蔵館ほか蔵)に、第79段「ちひろある影」(第5巻)の出産シーンは如慶筆「東照宮縁起絵巻」(紀州東照宮蔵)に、また第104段「賀茂の祭を見る」(第5巻)の左端の人物は「年中行事絵巻」(摸本・個人蔵)に近似する描写がたどられる。図様の関連ばかりでなく、第70段「大淀のわたり」(第4巻)で室内に大緒を足に付け架木に止まる鷹を描くのは武家の好みと思われるモチーフの導入であり、第96段「天の逆手」(第5巻)では詳らかになっていない天の逆手の動作を描くのも、従来の伊勢物語絵には見られない本作の独創的な性格を示している。画面構成においては、第31段「よしや草葉」では、やや不合理な建築構造を取り入れることで、主人公の男に女房たちの視線を集める効果をもたらしている。第9段「富士山」(第1巻)、第114段「芹川行幸」(第6巻)では1メートルに近い長さの料紙に俯瞰の視点で広々とした空間をとらえ、室内場面に見る近接の視点と屋外場面での遠望や俯瞰の視点の対比を交えて、変化のある場面展開を備えた絵巻として、鑑賞する側の興味をそそっている。このように絵の随所に如慶の工夫をたどることができるのである。この絵巻は表現が多様であり、従来の伊勢物語絵の伝統をふまえて、新しい構図や場面解釈、絵画表現により独自性を備えた作品に仕上げられていることが明らかになった。

全巻の詞書を担当した愛宕通福は彦山座主権僧正有清の子息で、中院通純の養子となって中院新家の主となった人物である。通福の書風の研究は進んでいないが、これほど大量の書の残存が確認できたことで、書家としての活動を考える上でふさわしい資料が提

供できることとなった。

書の料紙を装飾する下絵は、大半が俯瞰した構図による山水を主とした景物画である。そこに見られる金銀の箔や泥を用いた装飾には箔加工による斬新な表現も見出せた。伝統と変化を兼ね備えたこの絵巻の料紙を装飾料紙のなかで位置付ける上でも本絵巻は好資料となる。書家や料紙装飾を対象とする研究課題も見出せた。

如慶筆「伊勢物語絵巻」は、この研究によって、伊勢物語絵の体系を構築する上で江戸時代前期を代表する作品として基礎的な研究データを提供できることになる。この研究成果を研究書として公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計4件)

1. 泉紀子「色紙の中の伊勢物語 《宗達伊勢物語図色紙》の表現」・大阪府立大学日本言語文化学会『百舌鳥国文』第二十八号・1頁～16頁・査読あり・2017年3月
2. 泉紀子「白居易詩と伊勢物語(絵) 詩と絵と和歌の交流・創造」『白居易研究年報特集 書蹟と絵畫』第十七号・126頁～153頁・査読あり、勉誠出版、2016年12月
3. 山本登朗「源氏物語への回路-伊勢物語第六段の再検討から-」『京都語文』(仏教大学) 査読あり・23号・50～66頁・DOIなし・2016年11月26日
4. 青木賜鶴子「扇絵の中の『伊勢物語』」・『百舌鳥国文』第27号・査読有・1-14頁・2016年3月
5. 山本登朗「『伊勢物語』と「色好み」」『伊勢物語の新世界』妹尾好信・渡部泰宏・久下裕利編・武蔵野書院・232ページ・2016年3月14日

[学会発表] (計3件)

1. 田中まき「住吉如慶筆「伊勢物語絵巻」の図様について」・第9回絵入本学会・東洋文庫ミュージアム・2016年12月16日

2. 赤澤真理「伊勢物語絵に描かれた建築空間-住吉如慶にみる復古表現と同時代表現-」・国際シンポジウム2016『絵入り本と日本文化』(絵入本ワークショップ)・東洋文庫・2016年12月11日

[図書] (計2件)

1. 河田昌之「久保惣コレクションにおける第六次久保惣コレクションの意義」・共著『第六次久保惣コレクション』・4-8ページ・和泉市久保惣記念美術館・2016年10月2日
2. 山本登朗 単著・『絵で読む伊勢物語』・和泉書院・64頁・2016年6月10日
3. 田中まき 共著・『新校注伊勢物語』・184ページ・和泉書院・2016年3月31日

[その他] (計15件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河田 昌之 (Kawada Masayuki)

研究者番号：20712061

大阪芸術大学・芸術学部・教授

(2) 研究分担者

1. 泉 紀子 (Izumi Noriko)

研究者番号：30212955

羽衣国際大学名誉教授

2. 山本 登朗 (Yamamoto Tokuro)

研究者番号：40210538

関西大学・文学部・教授

3. 田中 まき (Tanaka Maki)

研究者番号：50299088

神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授

4. 徳原 賜鶴子 (青木 賜鶴子) (Tokuhara Shizuko, Aoki Shizuko)

研究者番号：60180139

大阪府立大学・人間社会学部・教授

5. 赤澤 真理 (Akazawa Mari)

研究者番号：60509032

岩手県立大学盛岡短期大学部・生活科学科・講師

(3) 協力研究者

1.片桐 洋一 (Katagiri Yoichi)

大阪女子大学名誉教授

2.林 進 (Hayashi Susumu)

関西大学非常勤講師

3.大口 裕子 (Oguchi Yuko)

霞会館資料展示委員会学芸員